



第32回 日本臨床工学会 及び
2022年度 公益社団法人日本臨床工学技士会総会
共催学術セミナー9

**SDGsの
視点から考える
より良い透析医療**

日時

2022年5月15日(日) 12:00—13:00

会場

第3会場 つくば国際会議場 1F 大会議室102

座長

本間 崇 先生
〈善仁会グループ 安全管理本部／公益社団法人日本臨床工学技士会〉

講師

五十嵐 一生 先生
〈本間なかまちクリニック〉

五十嵐 一生 先生

〈本間なかまちクリニック〉

SDGsの視点から考える より良い透析医療

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の視点から考える活動は、周囲からの共通理解が得られやすく物事を前進させる原動力になる。SDGsは国連加盟193か国で決定した地球規模の問題を解決するための17の目標であり、すべての人や企業の共通目標である。地球で人類が安全に活動できる範囲を科学的に定義したプラネタリー・バウンダリーの環境要素のうち、気候変動はリスク増大の領域であることが示され、気候変動に関する政府間パネル (IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change) では地球温暖化の要因に人間の影響を疑う余地はないと初めて断定した。二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を直ちに急速かつ大規模に削減しない限り地球温暖化を抑えることは現実的ではなくなると報告している。血液透析は電気、水、医療材料など多くの資源を必要とする治療であり、その治療を受ける慢性維持透析患者数は347,671人 (2020年12月31日現在) にも上る。とても大きな業界であり、緊急の目標である「SDGs 13:気候変動に具体的な対策を」について活動することの意義は大きい。当クリニックでは“安心して治療を受けていただき、安心して暮らしていただく”をコンセプトに医療設備や治療法を検討してきた。本セミナーでは、SDGs 13に対する取り組みから透析熱回収ヒートポンプシステム導入による電気料金の削減と二酸化炭素排出量の低減効果、装置統合管理支援システムMiracle DMACS EX (東レ・メディカル社) 導入による透析液廃棄量の低減と透析液費用の削減効果、また「SDGs 3:すべての人に健康と福祉を」の取り組みから血圧安定効果が得られる間歇的に透析液と除水を停止するレストポーズに近似した治療条件を付加できる透析用監視装置TR-3300M (東レ・メディカル社) による血液透析について報告させていただく。透析施設がSDGs 13とSDGs 3に取り組むこと、それは結局、他15のSDGsも同時に解決に向かっていくことに気がつく。SDGsに求められる環境保護、経済開発、社会的包摂の3要素が調和している活動は、周囲からの共通理解が得られやすく、より良い透析医療を推進するだろう。根拠に基づく医療 (EBM: Evidence-Based Medicine) や患者報告アウトカム (PRO: Patient Reported Outcome) にSDGsの視点から考える要素が加われば、さらに魅力的な透析医療になるのではないだろうか。